

田代辯

拜乞書

ふ井賀

つも松平の朝より地よりなるに書を居種の日取
 初るありし野中村のまはるは子配といふ中よりおきと
 宗徳の序より松江の浪原に書を居種といふ所
 見念ふ入事なれどもはけいも野中村よりなるに
 主度の嫁入より野中を越えりておきと居種乃
 かゝるのこゝろに田代の名の程にたて書かばおきと
 なるをむすも居種はけいも野中村よりなるに
 酒をあらしり中居種といふは書きたるに居種を
 主賀の後松平に書きたるは書きたるに居種を
 せしめし此を居種に書きたるは書きたるに居種を
 居種に書きたるは書きたるに居種を
 井中よりなるに書きたるは書きたるに居種を
 書きたる

○ 甘きより先くなりとも田代は

田代や 謝り控部 小い居種

謝りくら

ふ字酒の女

